5.平成8年度ニーズ調査における要望課題と予算化の経過

要望課題名(機関名)	試験研究機関等の意見	予算課題名
《稲作》		
1.北海道米の白度アップ及び脱芽性アップ (ホクレン)	「極良食味」を強化し、白度の向上をめざす。栽培条件と白度の関係は検討の必要がある。胚芽問題は、基礎調査の必要がある。	道産米の食味水準向上対策試験
2.水稲の食味向上のための栽培技術 (上川中央農改)	各育苗法に適応した品種がありその食味特性を十分に発揮させることが必要。そのためには各育苗法の栽培基準どおりの励行が必要。 直播は「低コスト試験」、中苗は「食味向上試験」で実施中であり、食味評価は必要に応じて行う予定。 食味はN濃度と密接な関係がある。しかし、6～7月中の葉色濃度の推定はその後の気象の影響が大きく、また、年次、土壌などにより差が大きく、技術開発は困難を伴うが、葉色診断手法を含めた検討が必要である。 白米の蛋白含有率は、不耕起のグライ土、泥炭土でやや高いが、その他の土壌や無代かきでは差がない。食味については必要に応じて行う予定。実証展示など事例を多くして「低コスト米生産総合技術開発特別事業」で継続検討予定。	道産米の食味水準向上対策試験
3.泥炭地における良食味米栽培技術 (石狩北部農改)	気象面を重視した土木的な解析と対策が必要。	道産米の食味水準向上対策試験
《畑作》		
4.コムギ「縞萎縮病」対策 (有珠農改)	畑作部門としては、平成8年度から、抵抗性品種育成のために必要な試験を開始する予定である。	小麦縞萎縮病の発生実態解明と緊急防除対策
5.菜豆の試品種育成 (JA更別)	課題化に向け検討	菜豆の黄化病抵抗性品種の開発促進
6.二化性馬鈴しょ(ワセシロ)の栽培技術の確立 (端野町農協・園芸部北見農改)	課題化に向け検討	今後の課題化に向けて検討
《園芸》		
7.セル成型苗利用技術 (ホクレン)	順次課題化を検討(野菜) 花については関連試験の中で検討する。	今後も課題化に向けて検討
8.「トマト子葉苗」直定植栽培技術 (ホクレン)	省力化技術については重要課題であり、トマトについては問題を整理して課題化を検討する。	今後も課題化に向けて検討
9.果樹の省力化栽培体系の確立(りんご、おうとう) (ホクレン・農政部畑作園芸課)	台木選定については実施中。 省力化技術については重要課題であり、りんごは問題を整理して課題化を検討する。	リンゴ栽培の省力・軽労働化栽培技術の確立
10.西洋ナシ栽培技術の確立 (ホクレン・農政部畑作園芸課)	重要な課題であり、特に緊急を要する収穫適期の判定について課題化を検討する。	今後も課題化に向けて検討
11.シュッコンカスミソウの夏秋切り作型における切り花品質の向上対策 (美幌農改)	北海道の基幹品目であり、課題化を検討する。	シュッコンカスミソウ品質向上技術の確立

12.カーネーションの秋収穫後の芽を整枝した株の越年栽培の管理技術の把握 (遠軽農改・渡島中部農改)	課題化を検討。	道南地方における花きの新作型開発試験
13.ラークスパー秋切り作型における育苗方法の改善 (旭川農改)	需要の伸びている作物であり、出荷期間延長のための重要課題である。	今後も課題化に向けて検討
14.花きの隔離ベンチ栽培指標の作成 (石狩中部農改)	背景のような実態が見受けられるが、他の課題もありすぐには課題化は困難。 カスミソウはH9の課題化を検討。	今後も課題化に向けて検討
15.簡易軟白ねぎの軟白化のための被覆方法の検討 (旭川農改・空知南西部農改・有珠農改)	フィルム利用による簡易軟白法について、基本的な栽培指標(被覆フィルム内気温、地温、湿度、遮光程度等)の確立が必要である。また、低コスト化の技術開発も必要であり、課題化を要求する。	道南野菜の安定生産技術の確立
16.ホウレンソウの内部品質向上のための栽培管理対策 (有珠農改)	現行課題の成果を踏まえて栽培管理対策の課題化を検討したい。	今後も課題化に向けて検討
17.ながいも(ヤマノイモ)の新品種の育成 (十勝農業協同組合連合会JA帯広川西)	抵抗性素材の探索、交雑親和性等の育種の条件を検討整備し、H10年ころの課題化を目指す。 ウイルス検討法は、H9の課題化を目指す。	共同研究「ヤマノイモの種間交雑によるウイルス病抵抗性因子導入に関する育種技術の開発」で要求中。
18.メロン子葉苗(セル成型苗)の直接定植栽培法の確立 (ホクレン支所)	省力化技術の1つとして、実用性が高いと考えられる抑制作型で栽培管理法を検討する必要がある。	今後も課題化に向けて検討
19.アスパラガスのF1品種における栽培年数と収量の確認 (南羊蹄農改)	花・野菜技術センターへの移転に伴い現行試験を拡大再構築したい。(北農試、北缶研のデータの活用、各地の情報を整理。)	グリーンアスパラガス新品種多収栽培法確立試験
20.リンゴの省力・低コスト栽培技術の確立 (旭川農改)	低樹高栽培については問題点を整理して課題化を検討する。	リンゴ栽培の省力・軽労働化栽培技術の確立
21.北海道に適したりんご省力化栽培技術確立 (南留萌農改・北後志農改・空知北部農改・空知西部農改)	現在実施中のものもある。 省力栽培技術の確立は緊急を要する課題なので、問題点を整理して課題化を検討する。	リンゴ栽培の省力・軽労働化栽培技術の確立
22.「西洋なし」の栽培技術と貯蔵技術の確立 (南留萌農改・空知北部農改・北後志農改)	収穫時期判定については、緊急を要する課題なので、課題化を検討。	今後も課題化に向けて検討
《畜産》		
23.黒毛和種肥育素牛の育成法確立	新規対応を検討する。	共同研究「黒毛和種のほ育・発育能力評

(十勝南部農改・十勝専技室)		価法の確立」で要求中。
24.黒毛和種雌牛の繁殖性向上のための適性管理法の確立(十勝専技室)	未実施の部分について課題かを検討する。	共同研究「適気受精による黒毛和種の繁殖サイクル短縮技術の確立」で要求中。
25.軽種馬に対する飼養管理技術の確立 (日高中部農改)	H9年に「日本軽種馬飼養標準」が設定される予定である。この中に飼養管理方法と飼養上の注意点も盛り込まれる予定である。未実施の部分は課題化検討。	ウマの連続放牧に伴う栄養価：飼料成分の変化に対する研究
26.地域に適応する牧草の品種改良と栽培・利用法の確立(JA中春別・根室支庁農務課)	アルファルファについては根釧向き品種育成のための現地選抜試験を実施中。 未実施の部分は課題化検討。	新品種導入等を基幹とした公共草地の高度利用技術 天北地域における優良草種・品種導入による高栄養自給飼料生産技術
27.飼料分析項目の拡大 (十勝東部農改)	安定的に高泌乳を実現するために必要と考える。	今後も課題化に向けて検討
《環境化学》		
28.有機質資材の品質基準と投入量について (農政部設計課)	持続性も含めた評価はほとんどなされておらず、課題化を検討したい。	今後も課題化に向けて検討
《農産化学》		
29.りんごの貯蔵中の内部褐変(果肉障害)防止技術 (ホクレン・農政部畑作園芸課)	品質保持の試験では1℃での貯蔵が適切であることを示している。各々の貯蔵条件がどの様であったのかを調査する必要がある。ただ、平成7年産のものでは2～3割の果実が褐変したとも伝えられているので、この問題が貯蔵条件だけなのか、品種の特性なのか、果樹担当科と充分連携し調査をしていきたい。本道農業にとって重大な課題と認識している。	ハックナイン内部褐変解析と防止対策
《病害虫》		
30.だいこんバーティシリウム黒点病の防除対策と罹病集出荷処理残渣の処理方法の開発 (農政部畑作園芸課)	後志、渡島、桧山、石狩、十勝各支庁管内のダイコン生産を確認している。本病は産地崩壊をもたらすようなダイコンの重要病害であるので、早急な防除対策の確立が必要であり、試験研究機関としても早急に取り組みが必要であると認識している。 本病の罹病残渣中の病原菌は残渣中で長期間生存しており、ダイコンだけでなく多くの作物の伝染源となる。従って本病の蔓延を防止するためには残渣中の病原菌を死滅させた後、残渣を処理する必要がある。このようなことから本病防除対策の確立には罹病残渣の処理方法も含めた検討が不可欠である。	ダイコンバーティシリウム黒点病の緊急防除対策
《農業機械》		
31.小豆・菜豆の機械による子実乾燥・調製方法の確立 (十勝南部農改・十勝西部農改)	麦用施設の汎用化は損傷回避の面から検討の必要	菜豆(金時類)の高品質省力収穫技術確立試験
32.スタンチョン牛舎における強制換気方式(ファン方式)の効果的利用方法と乳牛に与える影響や経済効果 (南根室農改)	換気方式変換牛舎の開発を行い、根釧・新得両試験場の牛舎として利用している。自然換気時の換気量の増加、操作の簡易化が必要。高泌乳化に対応した暑熱時の環境改善が必要。	今後も課題化に向けて検討
33.繋ぎ牛舎における換気方法と換気が及ぼす生産効果 (別海町農林課)	冬期の牛舎内環境改善法について提示済みである。高泌乳牛に対応した暑熱対策をはじめ、牛舎構造、省力化など、つなぎ牛舎について総合的に検討する必要がある。	今後も課題化に向けて検討

《経営》		
34.野菜生産における最適分荷比率について (農産部畑作園芸課)	小売店が巨大なガリバー産業に成長したきたので、中央卸売市場を支配するまでに至っている。産地としては、その対抗策として、それぞれの流通チャンネルに適応した分荷戦略を構築する必要が生じている。	新規作物導入による新農業システムの確立の中で実施
35.多角的農業経営体の類型化と合理性の検証 (釧路支庁農務課)	この種の多角化部門は、農業経営の収益向上等個別的な側面と同時に、その取り組みにより農業の支援者を獲得・増加するという側面をも有する。酪農部門を基盤としつつも、単に個別経営の問題としてではなく、地域として組織的に取り組む際の戦略と個別経営への効果とを合わせて検討する必要がある。個別経営にとってのみならず、地域にとっても重要な問題であり、今後課題化を検討したい。	今後も課題化に向けて検討
36.農業の起業化による多角的経営の検討を条件整備 (南留萌農改)	近年、農業を取り巻く経営環境の変化に伴い、農産物の加工やファームイン、レストラン経営など、経営の多角化を目指す農家が出現し、増加傾向にある。普及の現場においても、これら起業化に係わる指導や助言が求められている状況にあり、課題化が必要と考える。	今後も課題化に向けて検討
37.農用地流動化促進の方策 (茅部農改・道南専技室)	農地の流動化を規定するのは、農家をやめて他産業に就職できるかどうかの労働市場問題、農地の転用地価の相場、所有権と耕作権との関係、小作地の土地改良問題等が錯宗しているので、難しいが、取り組む必要性は大きい。	今後も課題化に向けて検討
《農業土木》		
38.老朽水田・畑に係る改善工法の確立 (農政部農村計画課)	新規課題として要求し、取り組んでいきたい。 粘土のみならず、ケイ酸鉄なだの新しい視点から検討したい。	北海道における高度排水改良法の開発と基準策定
39.水田畦畔漏水防止工法の確立 (農政部設計課)	重要な課題であり、近年中に取り組みたい。 土壌タイプ別の実態調査を含めて、土木的工法を検討したい。	今後も課題化に向けて検討
40.水田土壌における縦浸透改善技術の確立 (農政部設計課)	新規課題に取り上げたい。 耕盤を確保しながら浸透を促進する方法を検討したい。	高度排水改良法の開発と基準策定

目次へ戻る